様式第４号

令和８年度　保土ケ谷区障害者地域自立支援協議会　まちで暮らすネットワーク 第４回定例会議事録　（内容：グループホーム情報交換会「地域連携推進会議を考える」）	
日　　時	令和８年９月１０日（木）１３：３０～１５：３０
開催場所	保土ケ谷区役所４Ｆ　401 会議室
出 席 者	＜参加者　22 名＞ リビットはうす横浜、夢 21 ホーム、ダンボの会、エターナル上星川、サンハイツ横浜、偕恵いわまワークスグループホーム、西区基幹相談支援センター、光風会のばら園、タキオンライフ、ポート葦、セラヴィ横浜 verte、&みらい、夢 21 上星川、ほどがや地域活動ホームゆめ ＜部会事務局　10 名＞ 恵和青年寮、十愛病院、ほどがや希望の家、夢 21 福祉会、保土ケ谷区生活支援センター、保土ケ谷区高齢・障害支援課、保土ケ谷区基幹相談支援センター、わおん相談支援事業所、同愛会地域生活支援センター
欠 席 者	たっちほどがや、保土ケ谷区高齢・障害支援課、西区基幹相談支援センター、夢２１ホーム（計４名）
開催形態	（公開）（傍聴人：　　名）　・　非公開
議　　題	記録：十愛病院 **１．開会あいさつ、テーマ紹介　13:30** 佐野部会長より、本日のテーマ「地域連携推進会議」が義務化されたことで具体的な運営方法に悩みが出てきている。すでに実施している参加法人の実践を共有し、今後の取り組みに生かす意見交換の場としたい、との挨拶があった。 **２．実践報告　13:40** **・「地域連携推進会議」について実践報告** 事例①「リビットはうす横浜」　発表者：リビットはうす横浜 これまでに２回開催した。入居者会議を経て、合意形成しながら入居者自身も主体的に関わる形で実施された様子が聞かれた。地域の関係者に生活実態を知ってもらい交流を深める場」と位置づけ、施設内交流会をイベント化したり、地域住民や福祉関係者を対象とした見学会を兼ねたり、随所に工夫が感じられた。 課題としては、家族参加が難しかったことが挙げられた。内容の工夫や開催時間帯の検討など、今後の調整につなげたいとの話が聞かれた。また、近隣の自衛隊員や地域警察官などへ関心喚起できる企画も検討したいと意欲的な展望が聞かれた。 事例②「ダンボの会と夢２１福祉会の協働実施」発表者：夢 21 ホーム、ダンボの会 町内会が一緒という環境を活用して、２法人が共同で開催した。お菓子を持ち寄るなど、懇話会のような柔らかい場を設けることができたとの報告が聞かれた。地域住民・民生委員などを含めた参加者全体で相互の施設見学を行うなどした結果、これまでは顔も見かける程度だった地域住民と入居者との間で挨拶を交わす関係へ発展するなど、地域づくりに直接つながる効果が生まれていた。 会議の早期実施に対する効果が報告され、入居者との一緒のアクションが成功のポイントになることが知れた報告となった。

	3．グループワークでの意見交換　14:15 ・意見交換のポイントを以下の３点として、活発な意見交換が行われた。 ①２つの実践報告を聞いての感想 ②自事業所で取り組んでいる「地域連携推進会議」の取り組みの共有 ③今後の開催に向けてのアイディアや課題と感じていること 実践報告を聞いた感想のほか、地域連携推進会議開催にあたっての人員構成、内容、工夫点をはじめ、課題など５グループに分かれて活発な意見交換が行われた。 **4．グループワークの共有　14:55** ・各グループからグループワークで出た意見を順に共有した。 １グループ：経営に特化した人をメンバーに、苦情解決についてなどが開催の迷いになっていたが、実践報告を聞いて開催しなければと思えた。ホームには閉ざされたイメージがあるかもしれないが、どんな方が住まわれ、どのようなコミュニケーションを取ればよいか知っていただける機会にできる。知ってほしい。入居者同士のつながりの機会にもなり得て、生活上の安心感につながるのではないか。 ２グループ：共同開催というアイディアがとても面白かった。多くの人と知りあう機会になる。気軽に参加できるイベントの様にしてもいいとわかった。食べ物の活用も面白い。近隣店舗の方を呼ぶのもいい。入居者にとっても、事前準備を通してイベント感を作れると感じた。洋服選びからワクワクがあっていい。曜日の設定には難しさも感じる。 ３グループ：会議という形にとらわれず、地域の人に知ってもらう取り組みとして考えたい。地域には他のホームもあるので、一緒にやっていけたら、とイメージは持てた。自治会にも加盟したい。すでに実施されている施設の話が出て、家族会・大家さん・民生委員・県社協・近隣の支援学校防災に参加してもらったことを共有できた。防災についても一緒に考えていけると良いと思った。 ４グループ：イベント化は良いアイディア。普段からの関わりはないが近隣のホームと協働できたらいい。入居者を交えて会議の運営委員会を作るのもいい。災害が起こった時は、自治会が頼りになるので、率先して参加するのが良いと思った。地区の民生委員も呼びやすくなるのではないか。住んでいるのは職員ではなく、利用者さんという視点が大事だと感じた。 ５グループ：会議は未実施だったが、具体的なイメージを持つことができた。イベントや地域交流の場として考えればいいと思えた。会議内容を入居者さんと一緒に考えたのは、良い試みだと感じた。複数のホームがあるが､個々での開催を考えた｡地域にホームを知ってもらう事は、一つの目標と思う。町内会との関係は気になった。 その他、「地域連携推進会議」という名称が会議然としたイメージにつながる、柔軟な発想につながりにくい、というユニークな意見も聞かれた。 **5．報告者より振り返り　15:15**

各グループからの発表を受けて、実践報告者からコメントをいただいた。
地域自治会との関わり方、グループホーム間での連携について感想が聞かれた。

・実践報告された３事業所は、いずれも自治会に加盟しており、会費の納入や寄付金納入などをされていた。地域での行事や清掃活動に入居者と共に参加されていた。
・グループホーム同士の連携については、近隣に同様の施設があることは強みであり、該当の無い事業所については高齢者施設等との連携を模索する必要があるかもしれないとの具体的なアイディアも聞かれた。
・困った時は一事業所で抱え込まずに、グループホーム間や自立支援協議会の活動等を通じて情報交流できる関係を築くことも大切との認識が聞かれた。

６．事前アンケートの質問　15:20

・事前にいただいたアンケートでの２件の質問に関して、会場参加された施設の方から回答をいただいた。

＜質問１＞どのように会議参加者を集めているか

偕恵いわまワークスより：各ホームの担当者が、近隣住民やよく利用しているコンビニエンスストアの店長など、個別で依頼している。

＜質問２＞会議に参加して頂くメンバーは毎回変えているのか？

恵和青年寮より：（グループホームを）広く知ってもらうためには、毎回メンバーを変えることが重要になると考えている。

７．告知その他　15:25

その他：当日の様子について、記録用の写真撮影とホームページ・インスタグラムへの掲載が参加者に了承を求められた。

告知①　9 月 16 日（水）に強度行動障害ワーキンググループ主催で、「ひなた空」グループホーム見学交流会を開催。定員に余裕あり、参加者を募っている。

告知②　9 月 25 日（金）に知的障害当事者の登壇する研修会実施の案内。

告知③　10 月 6 日（火）に保土ケ谷区自立支援協議会　第２回全体会開催の案内。
14：00～16：30　保土ケ谷公会堂にて開催。

告知④　成年後見サポートネットより、12 月 17 日に「成年後見制度勉強会」実施の案内。令和 10 年度の成年後見制度の大幅な改定を前に、現制度との違いなどについて事例を含めた話を聞くことができます。
（締め切り 11 月 19 日）

告知⑤　次回の部会予定：「相談支援部会との合同事例検討会」
11 月 27 日（金）15：30～17：30　於：保土ケ谷区役所　地下会議室

保土ケ谷区障害者地域自立支援協議会
公式ホームページに、「まちで暮らすネットワーク部会」の情報も掲載されています